

玄松院のお檀家さんは新年、まずお寺に詣でて、お釈迦さまとご先祖さまにご挨拶をいたします。今年も本堂はあふれんばかり。こんなすごいお寺があるのでしょうか。



初詣



だるま
あたりましたあ

私は最近「ふるさとの魅力」について考えます。総代さんが紅白の幕を張り、田生さんが照明車をセツトし、梅花講のみなさんが年越そばを振るまい、みずほ会が新年太鼓を奉納する。そしてこうして集まったみなさん！寺とご先祖さまを大切に地域のみなさんのこの「気質」こそ最大の魅力だと思っております。この場に都会の人を連れてきたら感動すると思います。私のかいかぶりでしょうか。(正恵)



震災後二回目の除夜の鐘を、皆さんのような気持ちで鳴らしたのでしょう。「来年はもっと良いことがあるように」「大病しねえように」「孫が健やかに成長しますように」



除夜の鐘



「お父さんに届くかしら」



第31回
正恵塾

「昭和八年の三陸大津波で亡くなった霊をなくさめる位牌が玄松院にありました。毎年八月の施食法会の際、この位牌に手を合わせてきた私たち。でも、その位牌になにが書いてあるかさえ確かめずに手を合わせていました。八十年経つというのはこういうことなのでしょうか。東日本大震災のことも八十年経つと忘れるのでしょうか」

カフェ・デ・モンク



年が明け、坊さんによる移動傾聴喫茶「カフェ・デ・モンク」がまた始まりました。正明住職が健在だから出来ることかも。大切な人や全財産をなくした人への寄り添いは続きます。



おふだ刷り

ご年始にお檀家さんにお配りする「立春大吉」と「鎮防火燭」のおふだは、このようにして毎年一枚一枚版木で刷ります。このおふだをお正月三ヶ日ご祈禱し、ご芯入れをします。良いことは入ってくるように、悪いことは入って来ないように、戸口に貼ってください。遠方のお檀家さんのためにサイズが小さいおふだを作らなげや、と考えています。